

# Change of cytokine in pressure ulcer with undermining

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Konya, Chizuko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19450">http://hdl.handle.net/2297/19450</a>

# 博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1696 号

氏 名 紺家千津子

## 論文審査員

主 査 (職名) 稲垣 美智子 (教授)

副 査 (職名) 坂井 明美 (教授)

副 査 (職名) 真田弘美 (東京大学教授)

金沢大学客員教授



論文題目 Change of cytokine in pressure ulcer with undermining  
(ポケットを保有する褥瘡のサイトカインの推移)

## 論文審査結果

本論文は、医療機関や介護施設および在宅等で難治性とされているポケットを有する褥瘡の治癒過程を、サイトカインの推移から検討し治癒促進や難渋しているケア方法を開発する目的とした研究である。

方法は、ポケットを有する褥瘡のある患者 6 名、6 部位の瘡のサイトカインと褥瘡の変化を調査し、瘡の状態別にサイトカインの推移を調査した。サイトカインは、ポケットに貯留した浸出液から IL- $\alpha$ 、IL- $\beta$ 、bFGF、PDGF-AB、IL-4、TGF- $\beta$ 1、VEGF を測定した。その結果、浸出液中からは、炎症反応を示す IL- $\alpha$ 、IL- $\beta$ 、VEGF が毎回検出され、創傷治癒を促進させるというサイトカインは毎回は検出されなかった。調査時に治癒停滞しているか否かで分類し比較すると、治癒停滞を認めた褥瘡は認めない褥瘡より IL-4 と bFGF の検出率が低かった。瘡の変化別にサイトカインの上昇した割合 (上昇回数/瘡の変化回数) をみると、ポケットの接着は VEGF が 5/7、瘡収縮は bFGF が 3/3 と高率であった。以上より、ポケットを有する褥瘡の治癒には、VEGF と bFGF が関与しているとの示唆を得た。

本研究は、ポケットを有する褥瘡のサイトカインを in vivo で初めて経時的に調査し、その変化を明らかにし、治癒促進あるいは難渋していたケア方法の開発に活用できる指標を示したこととして評価された。この結果は今後ますます増加する高齢者や在宅患者の褥瘡に貢献できると考えられた。

また口頭、公開審査においての質疑において、その内容、態度は的確且つ論理的であった。以上より、本論文が博士 (保健学) の学位を授与することに値するものであり、申請者は保健学における研究を自立して行うことに必要な高度な研究能力を有すると認め、論文審査を合格と判定した。